



烏山地域オウム
真理教(現アレフ)
対策住民協議会

オウム反対抗議集会 第10回抗議デモ・学習会

5月23日(月)

解散しないオウムに対して、我々は怒りの声を上げよう!

第1部 抗議デモ

PM 5:30

烏山区民センター広場 集合

第2部 学習会

PM 6:30

烏山区民センター ホール

講師 滝本太郎弁護士



講演

オウム真理教は今、何を考えているのか?

オウムの恐怖に対する現実とは? 一般信者を脱会させることは可能なのか?

滝本太郎 弁護士 1957年生。オウム真理教被害対策弁護団。93年7月から脱会カウンセリング。空中浮揚の写真が教祖に睨まれたからか、94年5月自動車の空気吸入口にサリンをかけられる。95年6月脱会者の集まり「カナリヤの会」を作りその窓口。日本脱カルト協会の理事・事務局長。著書に「マインド・コントロールから逃れて」恒友出版、「オウムをやめた私たち」カナリヤの会岩波書店、「宗教トラブル 110番」民事法研究会、「異議あり、奇跡の詩人」同時代社。

WANTED

オウム特別手配

懸賞金総額 **¥6,000,000**

懸賞広告実行委員会から、手配被疑者一人につき200万円が支払われます。

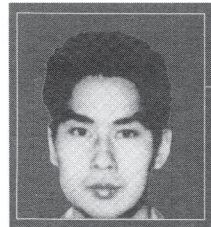
警視庁

平田 信



40歳
身長183cm位
歯並びが悪い
左首筋にホクロ

高橋克也



46歳
身長173cm位
近視(メガネ使用あり)
頭が大きい

菊地直子



33歳
身長159cm位
右こめかみに
ホクロ
右目下にホクロ

「あれから10年」 地下鉄サリン事件被害者は今!! に参加して

3月19日(土)(社)日本記者クラブで行われた「地下鉄サリン事件の被害者は今!!」の集会に住民協議会から4名の実行委員と烏山総合支所から1名が参加しました。

第一部 地下鉄サリン事件、被害者の今

第二部 今、サリン事件の被害者に必要なこと(パネルディスカッション)

に分かれており、第一部では被害者の代表高橋シズエさんから、9・11ニューヨークテロ事件の被害者対策との比較が報告された。米国からの遺族被害者3名も参加しての報告で、米国と日本の対応の違いに驚かされました。9・11事件の10日後には死亡した被害者に1人約1億9千万円の補償金が支払われた米国政府の対応と、いまだに何の補償もされず、オウム真理教の破産手続きによる、補償しか受けられないサリン事件の被害者。しかもオウム真理教が支払わなければならない28億円のうち、まだ8億円しか支払われておらず、20億円という膨大な金額がそのままになっているという日本の現実。

第二部ではパネラーの報告から、諸外国の犯罪被害者補償制度の現状が紹介されました。どの国も日本と比べると事が出てこないほど、きちんと国が対応しており、オーストリアのように民間支援団体と国が強力に連携し、被害者がめんどろな事務手続きをしないで済むという例もあげられました。

サリン事件発生当時から、被害者とかかわり、その健康状態を見守って来た、聖路加国際病院の石松医師は、被害を受けた5、500人すべてが何らかの症状で苦しんでいます。それが精神症状でも、身体症状でも、被害者全員を対象にした、健康調査が行われていないので、10年もの月日が経過し、被害者自身も病状が何に由来するのか分からなくなっています。世界で初めて一般市民が化学兵器によるテロの被害を受けたにもかかわらず、後世に残すべき事実がまったくなく不明瞭なまま10年が過ぎてしまいました。被害者の把握、健康調査と身体的・精神的ケアが是非とも必要であり、国のなすべき仕事です、と話されました。

3月20日その日だけが人々の記憶に残り、その日だけが記念日のように話題にされるのではなく、10年前の現実を忘れてはいけません。5、500人も人々がサリンという化学兵器による被害を受け、あの日から仕事が出来なくなり生活保護を受けなければならなくなった人、平和な生活から人生が変わってしまった人もいます。そして、遅々として進まない麻原彰晃(松本智津夫)の裁判、被害にあった人々は、その怒りをどこへぶつけばいいのでしょうか。やっと国が制定した犯罪被害者等基本法、早くに窓口が作られる事を願います。オウム信者は現在も麻原を崇拜し活動を続けています。

地下鉄サリン事件から10年「人間の鎖」による抗議集会（寄稿）

2005年3月20日、天候不順なこの頃にしては珍しく穏やかな快晴で、寒くも無くすばらしい天気にも恵まれました。私たちは好んでオウム真理教の信者たちを憎んだり、敵視したりするわけではありません。でも10年前の東京営団地下鉄内でひき起こされた、サリンガス・テロ事件のことを思い出すと恐ろしくて、とてもオウム信者の集団生活を認めるわけにはいきません。

何ヶ月も前から私たちは3月20日、あの忌まわしいサリン事件から10年になることを世間に向けてアピールして、オ

ウム真理教の恐ろしさを再度認識してもらおうと考えていました。

そして、人間の鎖で彼等の施設を取り囲み私達の「彼等を受け入れない」という固い意志を示し、地元住民の団結のパワーを示そうとしました。

最初に12名の被害者の方への黙祷を行いました。その間は厳粛な気持ちで犠牲者の方を思い、とても重い時間でした。そして、「人間の鎖」で彼等の施設を取り囲みました。約250名の住民は2重、3重になって施設の周りを取り囲み、

力強くシュプレヒコールを繰り返しながら叫びました。全員の声が地鳴りのように響きオウム信者の施設に集中しました。必ずオウム真理教を解散させて、集団で住む彼等を追放することを参加者全員が誓って「人間の鎖」を終了しました。

（滋賀県湖南市平松区環境整備

オウム対策委員会）



監視小屋だより

住民協議会の監視小屋はGSハイム右側の駐車場の一角にあり、オウム施設からは少し離れているため監視活動はGSハイム入口で行っています。

現在、地域住民24団体の皆さんが協力し、年間のローテーションを組んで、毎日欠かさずことなく地道な活動を続けています。監視活動の際に記入する「日誌兼連絡表」にはオウム信者の行動、性別、服装、持ち物等時間を追って非常に細かく記入され、我々地域住民が信者に対して直接大きな圧力をかける事ができる場でもあるのです。

〈監視小屋日誌より〉

- ・GSハイムと他の建物との往来がかなり多い
ほとんど何か荷物を持っている。紙袋・ダンボールの箱
- ・以前はあまり見かけなかったが自転車で外出する信者が多い。環八の量販店のビニール袋をもって帰ってきた。かなり遠くまで自転車で移動しているのか。
- ・サンサンマンションから女性信者(寝巻姿)がでてきて管理人?と話をしている。「正月はどこかへ泊まりに行くの」「友達を4人誘っていい」「正月らしい食事を、調子が悪ければ…」「最後は金である…」などのことばが聞こえた。
- ・信者の外出が多い。最初の頃より身なりもきちんとして

いる。駅方面に出て行く信者は何処へ、何をしに行くのか疑問に感じた。

- ・男性信者が携帯電話で話しながらサンサンマンションに帰ってきた(きちんとスーツを着て仕事の面接に行ったそうで…)
- ・サンサンマンションの表札を調べたところ、12部屋あり各部屋に2~8人、あわせて42人が住んでいるようで、中にはアーレフ事務所・広末法律事務所などもある。

克明に書かれた日誌から教団の動向、信者達の生活状況などが非常によくわかります。ファイルされた日誌の中には雨に濡れて字がにじんでいるものもあり、特にこの冬は雪も多く厳しい活動であったことがうかがわれます。

最近では「オウムはまだいるの?」「いつ迄続けるの?」という声も残念ながら耳にしますが、鳥山にはオウム真理教の本部があり、現在施設には130人余の信者が居住しています。住民協議会はこの監視活動をはじめ、学習会・抗議デモ、月1回のオウムニュース発行、募金・署名活動など「オウム解散・解体」に向け強い意志を持って、地域住民の皆さんと共に活動を続けていきます。地域の皆さんも活動中の人を見かけたら声をかけ激励してください。

住民協議会活動報告

3月20日(日) 新樹苑もちつき大会会場で募金活動
4月4日(月) 「協議会ニュース」45号初校正
4月6日(水) 事務局会議

4月11日(月) 「協議会ニュース」45号再校正
4月15日(金) 住民協議会
4月18日(月) 「協議会ニュース」45号発行

協議会ホームページアドレス <http://www.kyogikai.jp>

この協議会ニュースは、皆様の募金により発行されています。